

東京都議会議員・都民ファーストの会

福島りえこを知る ファーストブック

政治家を志した思い

ママが働く環境を
“特別”ではなく“当たり前”に



女性をはじめ
マイノリティーも活躍できる
環境の整備

次世代を
生き抜く力につながる
教育の推進

安心して暮らせる
コミュニティーの実現

福島りえこは、この3つの政策を軸に活動しています



◎ 都民ファーストの会としての成果

- 3年間で都内待機児童数を7割削減。2020年に世田谷区も待機児童「ゼロ」を実現しました。
- 議員提案条例で、
 - 「子どもを受動喫煙から守る条例」を制定。屋内を原則禁煙とする都条例制定につなげました。
 - 「東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック競技大会に係る文書等の保管及び承継に関する条例」を制定。開催経費などの事後検証を可能にしました。



【福島りえこのプロフィール】 都議会議員(都民ファーストの会、1期目)。東京都世田谷区桜上水生まれ、新町在住。2017年、都議会議員選挙に出馬し、70,431票を得て初当選。教育現場へのICT導入推進や、女性活躍のための制度融資創設を実施。議員当選以前から在宅福祉サービスや区立弦巻中学校PTAなどに取り組み、「働く女性」や「教育」「地域コミュニティー」の問題を意識して活動。議員就任後も災害ボランティアに参加するなど、生活者としての自慢を大切にしている。

【受賞など】 家庭と仕事を両立について「ワーマン・オブ・ザ・イヤー2011大賞」／世界初の裸眼3D液晶テレビ製品化で「全国発明表彰21世紀発明賞」／『AERA』の「日本を立て直す100人」に選ばれる

【その他経歴】 東北大大学院理学研究科 修士／(株)東芝 研究開発センターで22年間、研究開発に従事／電気通信大学 非常勤講師／文部科学省女性研究者研究活動支援事業 審査委員／婦人发明家協会 会長

連絡先

○ 電話 : 090-8345-6086 ○ Fax : 03-4243-2721 ○ 後援会入会はお電話、Fax、メールのいずれも承ります。

○ e-mail : tomin1st.fukushima.rieiko@gmail.com

○ オフィシャルサイト「リエコラボ」 : <https://tomin1setagaya.tokyo/>

○ 「リエコラボ」とは、福島りえこの「リエコ」とエコ(環境保全)とコラボ(共創)とラボ(研究室)をかけ合わせた福島りえこの政治家としての活動を表す造語です。

○ Twitter : <https://twitter.com/tomin1setagaya>

○ Facebook : <https://www.facebook.com/tomin1setagaya.tokyo>

企画・編集:福島りえこを知るファーストブック制作チーム 作成:福島りえこ後援会

討議資料



都議会議員1期目で実現した
政策の一部をご紹介します。

ICT活用に
積極的な学校視察



児童生徒1人1台の「ノートパソコン」の整備に加え、小中学校1校につき1人の「ICT支援員」の配置と、児童生徒の理解度に応じて出題できる「A+B教材」の試行導入を実現。知能定着を効率化し、創造的活動のための時間確保を前進させた。

Case-1 教育×ICT 次世代の教育を目指して

福島りえさんが大学院で修士課程を学びつつ就職活動を行った1994年は、いわゆる就職氷河期だ。研究職を目指すも「女性の採用はない」という企業ばかり。焦燥感を募らせる中、内定をもらつたのが(株)東芝だった。

「本当にうれしかったです。でも同時に、『女性研究者はいまほ

東芝勤務時代、オフィスにて

世界初の製品化に成功するなど、実績を重ねていた福島りえこは、なぜ政治家を志したのか？

研究者としてキャリアをスタート

ママが働く環境を“特別”ではなく“当たり前”に

とつ」といつ前例をつくりたくて、20代はブレッシャーとの離婚した」と言う福島りえこは、20半、そんな気持ちを理解していく研究者と結婚した。「結婚やが、新しい発想を得る転機だ。もしれません」

1年弱の産休・育休を経て31歳で職場に復帰。裸眼3Dディスプレイの開発に参加した。研究アイデアは、子どもを迎えて保育園へ気軽に通う道と考えた。そして開発した3Dディスプレイを「見やすくする

特許が評価され、裸眼3D液晶につながる。その後、量産化プロジェクトチームのリーダーにも抜擢された。「育児」と仕事を両立する他のママ

Case – 2
女性活躍×制度融資
日本のジェンダー
ダイバーシティ改善へ

Case - 1 教育×ICT 次世代の教育を目指して

【問題意識】――研究開発の場でAIとボットが人の能力に満つあることを実感するで知識定着を中心の従業教育に危機感。

Second View

Case – 1 教育×ICT 次世代の教育を 目指して

【成果】
都内中小企業数は45万社
にのぼる一方で、東京都の女性活躍推進策の対象は
多くて数百社に限られるため打開策が必要。

Case - 2 女性活躍×制度融資
日本のジェンダー
ギャップ改善へ

Case – 3
世田谷区と連携した
東京都の
人口十倍化を実現

Case - 2 女性活躍×制度融資
日本のジェンダー ギャップ 改善へ

Case - 2 女性活躍×制度融資
日本のジェンダー
ギャップ改善へ

Case-3 世田谷区と連携した
東京都の
コロナ対策を実現

Case - 2 女性活躍×制度融資
日本のジェンダー
ギャップ改善へ

同じように、保育園の送迎などで自由に残業や出張ができるなど、この制度はありました。でも、職場の制度が整つたり、両親や家族、同僚などからのサポートを得られることは幸いました。とても感謝しています。と同時に、女性が働ける環境を「幸い」や「ありがたい」ではなく、「当たり前」にしたいと思ったんですね。そのため、ルールを決める側です。そのために、元活動やある政治に活動の場を移すことを決めました」



APEC Women and the Economy Summitで女性イノベーターとして表彰、授賞式にて(経済産業省撮影、前列右端が福島りえこ)

いつでも相談できる
都議会議員でありたい



2021年2月 玉川由町公園 2020年10月 二子玉川駅前